



せいいたいしょうぐん 征夷大將軍って、何のことなの



最初は「^{えみし}蝦夷を平定する大將軍」の意味だったが、
後に「**武士の親分**」の意味に変わったよ。

最初は「蝦夷を平定する大將軍」の意味

古代の大和朝廷は、^{やまとちやうてい}蝦夷とよばれる東北地方の人々を平定し、朝廷に^{したが}従わせようと、大軍を^{はけん}派遣しました。奈良時代には、その大軍の^{しきかん}指揮官を、征夷將軍・征東使・征夷使とよんでいました。そして平安時代には「征夷大將軍」とよばれるようになり、征夷大將軍として任命されたのは、^{さかのうえのたむらまる}坂上田村麻呂(797年)が有名です。

^{みなもとのよしなか}源 ^{き そよしなか}義仲(木曾義仲ともいう)は「東国を平定する大將軍」の意味

1183年に、平氏を追って京都に入った ^{みなもとのよしなか}源 ^{き そよしなか}義仲(木曾義仲)は、^{ごしらかわほうおう}後白河法皇に圧力をかけて、自分を征夷大將軍に任命させました。このときの「征夷」は「征東」と同じ意味で、義仲が「^{とうごく}東国(^{みなもとのよりとも}源頼朝 をさす)を平定する大將軍」になったことになります。

のちに「武士の親分」の意味になった

1192年に源頼朝が、征夷大將軍(たんに將軍ともいう)に任命されてからは、征夷大將軍は、「^{ぶもん とう}武士の親分(武門の棟りょう)」の意味になりました。三代將軍の^{みなもとのさねとも}源実朝が殺されてからは、公家や皇族が征夷大將軍になりましたが、何の力もない、名前だけの役職でした。征夷大將軍が、ふたたび「武士の親分」の意味をもつようになったのは、1338年に^{あしかがたかうじ}足利尊氏が任命されてからのことです。江戸時代の征夷大將軍(將軍)も、同じ意味です。